

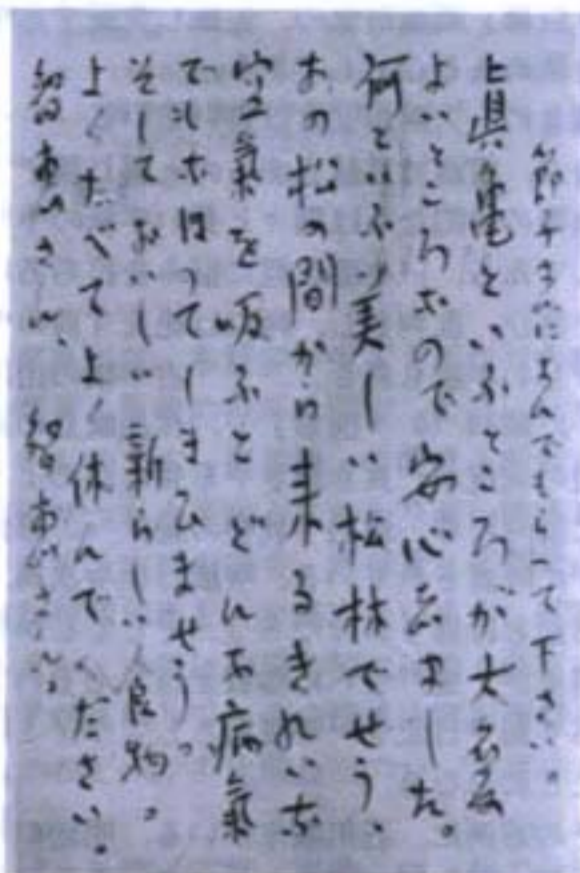
図書館だより

91.7

したがって本書は、『智恵子抄』を表とすればその裏であり、『智恵子抄』を芸術篇とよぶならば本書はその生活篇であろう。しかも、いわゆる記録物ノンフィクションなどといわれるものよりも一そう切実で、その期間も長い。

編者はこの二人の芸術家がこの世に残した片々たる寸簡をもあつめたのであるが、この片々のうちには盡きることのない、終生的な愛情がこもっている。光太郎が昨日別れてきた妻に「智恵さん智恵さん」とよびかける。誰が（五十歳を超えた男が）狂気、夢幻の中の妻にこんな葉書を出せるものであろう。このひたむきな誠実さがまた、じつに深い。

（「光太郎智恵子」編集者附記より）



千鳥と遊ぶ智恵子におくった光太郎の葉書

目次	次
作家の手紙 小笠原克 2	新入職員紹介 6
C. S. ルイスの晩年一書簡を通じて 平松哲司 3	特集：藤女子大学図書館 —— PART 1 藤女子大学図書館の歩み 7
手紙 —— 読みましょう 4	お知らせ 10

作家の手紙

小笠原 克 (国文学)

『志賀直哉全集』(全15巻・岩波書店)の別巻として『志賀直哉宛書簡』(昭49)が刊行された時の喜びと興奮は、今なお鮮かである。志賀17才から臨終までの72年間、選録された68氏、1251通。志賀の転居、旅行につれて宛先も20箇所に通し、差出人の住所も随時変わる。志賀全集12、13巻の書簡と照合すれば、個人史を超えた『白樺』周囲群像の、生動し変遷する時代模様を眺め入ることもできる。

編者の一人阿川弘之は書いている——<今の若者が、電話で長話をするのと同じ調子で、若い白樺の仲間たちは頻々と長い手紙のやりとりをしてる。/卒直大胆に悩みを打ち明け、冗談を言ひ、批判をし、時には絶交寸前のやうなはげしい手紙もある。>(「古手紙の山の中から」、昭48.10『図書』)。作品成立の過程、身辺の状況が、良き聴き手を得たかのように直哉に語られる。政治や社会の動きへの感懐も包まずに吐露されている。手紙は相手次第、そこが日記とは違うわけだろう。そしてしかし、この落差が一通りならぬ陰翳をはらんでいて、だから手紙や日記を一等資料としてウノミに出来ぬことにもなる。

その好例に、石川啄木がいる。明治41年の、“筑紫の君”菅原芳子との《恋文》往来などは女心をモテアソブ不届き至極の悪業と怒る御仁も居るだろうし、翌年の橘智恵子宛書簡では病臥を入院と偽わる啄木内面の心情を想望せずにはおれぬことにもなる。所詮、手紙も日記も、書かれたもの、にほかならない。真情吐露といひ懺悔告白といひ、事実ならぬ、さように表現された内面世界なのである。

とはいえ、手紙はむろん事実そのものを明証する資料でもある。志賀直哉書簡でいえば、小林多喜二の直哉訪問の年月について、長い間19

32年のこととされていたのが、網野菊宛書簡により1931年11月だったと知れた——このことは尾崎一雄『あの日この日』(尾崎一雄全集14)の豊潤な回想のなかで明らかになったうえ、前記『志賀直哉宛書簡』の1931年11月9日付小林のハガキ——<先日は突然お訪ねし、色々とお世話になり、非常にありがたう御座いました>で不動の事実となったのである。

加うるに、その前月、1931年10月に小林は念願だった日本共産党に入党した事実、さらに保釈中の身なのにその筋へ届けもせず奈良の志賀直哉を(秘かに)訪ねて一泊したのであってみれば、未成年時代から敬愛し続けた志賀初訪問は、この時期なればこそその重い意味を持っていたことがうかがえる。

1930年6月からの半年余の小林入獄中、志賀が差入をしようとしたことを知り、感謝とともに小林が<ようやく古本屋で見付け、一円で買った>自作『一九二八年三月十五日・蟹工船』を志賀に贈り<貴方の立場から御遠慮のない批判>を乞うたこと(1931年6月8日、志賀宛)、それに対する志賀の長文の返事(8月7日)に、あの有名な、<私の気持から云へば、プロレタリア運動の意識の出て来る所が気になりました。小説が主人持ちである点好みません。……作者として不純になり、不純になるがために効果も弱くなると思ひました……作品に運動意識がない方がいいと云ふのは私は純粋に作品本位でいった事で君が運動を離れて純粋に小説家として生活される事を望むといふやうな老婆心からではありません>と書かれたのだった。奈良訪問の日、二人はこの批評についても語り合ったろうか。(なお“主人持ちの文学”の真意は、中野重治の解くごとく<自分を主人として独立独歩することがそのまま積極的に階級的であるよ

うな作家となることへのすすめである)

さて、今日、電話の普及が個人全集の書簡篇を抹殺し、ワープロが自筆書簡を激減させることは明白だ。もはや、例えば芥川龍之介が友人に、
 <今夜帝劇へ行く夜君が来ると留守になる

から念の為此の端書を書きました 頓首>(大8.9.28)と、当日の用を弁ずるハガキを書いたなど、想像を超えたことになってしまった。

C. S. ルイスの晩年 — 書簡を通じて

平松哲司 (英文学)

C. S. ルイス(1898-1963.本業は英文学者だが、児童むけ小説『ナルニア物語』の作者として我々には馴染み深い)の晩年の最大事件といえば、やはりジョイ・デヴィッドマンとの結婚であろう。ルイスはジョイに出会うまでの58年間を独身で過ごし、誰もがルイスは一生結婚に縁がないと思っていたし、本人もそのつもりだったらしい。しかし、当時9つと7つの2人の男の子を持ち、離婚したばかりのアメリカ人女性ジョイとルイスの関係は急速に親密になり、1956年春2人は入籍し、ジョイが不治の骨髄腫を病んでいると宣告された後の1957年3月病室でジョイとルイスは神父を介して結婚式をあげる。余命いくばくもないジョイとの結婚生活がいかに大きな喜びに満ちたものだったかをルイスは「20歳代でつかめなかった幸福が60歳代で味わえるとは考えてもみなかった」と述懐している。1955年に出版されたルイスの自叙伝 *Surprised by Joy* のタイトルは将来の妻の名前の語呂合わせであるといふ勘ぐってみたくなるのである。

ジョイの骨髄腫との戦い、ルイスの献身的看護、ジョイの死のもたらす深い悲しみ—種やかでむしろ単調な学究の一生はその幕切れ近くで急にドラマチックなものになる。しかしこの時期のルイスの書簡に悲壮感を見つけることは難しい。安易な自分憐憫に陥るにはルイスの知性は磨ぎすまされすぎているし、そのシャイな

性格は一層彼を寡黙にする。

ジョイの死はヴェラ・ゲバート夫人への手紙で簡潔に伝えられている。自室で就寝中突然の苦痛に襲われ、救急車で病院に運ばれたにもかかわらず、ルイスに見とられてジョイは1960年7月12日午後10時15分に永眠する。「これ以上書く気力がないのを御容赦下さい。今度手紙を差し上げる時はこんなに重苦しくないものをお願いしています」とルイスは結んでいる。ルイスの悲しみがどんなに深かったかは1961年12月3日付の友人への手紙に窺える。「7月に家内が亡くなったのを御存知かどうか忘れていました。私どものためにお祈り下さい。たくさんのおことを学んでいます。悲しみというものは、始めて知りましたが、状態ではなく過程です。折り曲がった谷間を歩いて行って、ある距離を進むごとに風景が新しく変わるのと似ています。」ジョイの死の直前に書かれた詩はこう結ばれている。

今、貴女は私の欠乏を教えてくれた —

しかし、ああ、遅かった。

深い淵が見える。貴女のすべてが私の心を橋にしてくれた。その橋を渡って私は流刑から戻り、人になるはずだった。

そして、いま、橋が壊れてゆく。

ジョイの看護中ルイスは前立腺に異常をきたし、腎臓と心臓を病んで、やがて好きな散歩もままならぬ毎日となる。死の1ヶ月前、心臓発作から回復して書かれた友人への手紙には「荘厳たる死との戯れ」の境地が窺える。「予想に反して長い昏睡から醒めました。友人が絶えず祈ってくれたお蔭でしょう。しかし快適なくらいやさしい旅で、目の前で扉を閉められてがっかりしている心境です。……連れ戻されて、もう一度始めから死ぬのをやり直すのはつらいも

のでした。

「貴女が亡くなって、”刑務所の面会”が許されるのなら、降りていらして、煉獄にいる私をお訪ねください。

死ぬことって、愉快じゃありませんか？真面目な意味で。」

1963年11月22日金曜日、C. S. ルイスは永眠した。ちょうど同じ日、テキサス州ダラスでケネディー大統領が暗殺されたので、あまり耳目を引くニュースではなかった。

手紙 —— 読みましょう

- 「芭蕉の手紙」 村松友次著 大修館書店 1985
- 「会津八一書簡集」 和泉久子著 笠間書院 1968
- 「有島武郎書簡集」 改造文庫 1932
- 「妻への手紙」 堀辰雄著 堀多恵子編 新潮社 1959
- 「啄木書簡」 小田切秀雄編 第三文明社 1982 レグルス文庫
- 「ある死刑囚との対話」 加賀乙彦著 弘文堂 1990
- 「小林多喜二関連資料」 小林多喜二自筆石本武明宛書簡6点 小樽文学館（製作）（1983）
- 「九條武子夫人書簡集」 佐佐木信綱編 実業之日本社 1929
- 「生命に刻まれし愛のかたみ」 三浦綾子著 新潮文庫 1980
- 「母から娘へ」 三宅薫遺文・俊成撰 三宅俊成編 三宅俊成 1987
- 「十二年の手紙」 上下 宮本顯治、宮本百合子著 新日本文庫 1983
- 「宮澤賢治 友への手紙」 保坂庸夫、小沢俊郎編著 筑摩書房 1979
- 「詩人の手紙 三好達治の友情」 増補新版 桑原武夫著 筑摩書房 1982
- 「妻への手紙」 森鷗外著 小堀杏奴編 岩波書店 1982
- 「愛しき者へ」 上下 中野重治著 中央公論社 1983-84
- 「漱石書簡集」 三好行雄編 岩波文庫 1990
- 「漱石の書簡」 古川久著 東京堂出版 1970
- 「新島襄書簡集」 同志社編 岩波文庫 1986
- 「西田信春書簡・追憶」 石堂清倫（ほか）編 土筆社 1971
- 「青の諧調 小川国夫の手紙」 丹羽正編 小沢書店 1984
- 「純愛三十年 斎藤茂吉の手紙」 杉浦翠子編著 折口書店 1954
- 「冬の二人 立原正秋 小川国夫往復書簡」 創林社 1982
- 「光太郎智恵子」 高村光太郎、高村智恵子著 龍星閣 1960
- 「光太郎と葉舟」 北川太一、山田清吉編 葉舟会 1989
- 「坪内逍遙・会津八一往復書簡」 柳田泉、長島健編 中央公論美術出版 1968



- 「與謝野寛晶子書簡集」 天眠文庫蔵 植田安也子, 逸見久美編 八木書店 1983
- 「愛と孤独の遍歴 バイロンの手紙と日記」 中野好夫, 小川和夫訳 角川文庫 1968
- 「Select letters of English poets」 研究社英文学叢書 土居光知注釈 1929
- 「詩人の手紙」 ジョン・キーツ著, 田村英之助訳 富山房 1977
- 「ロレンス 愛の手紙」 D. H. ロレンス著, 伊藤礼訳 筑摩書房 1976
- 「D. H. ロレンスの手紙」 D. H. ロレンス編 伊藤整, 永松定訳 弥生書房 1971
- 「マンスフィールドの手紙」 K. マンスフィールド著, 橋本福夫訳 八潮出版社 1977
- 「エミリー・ディキンソンの手紙」 山川瑞明, 武田雅子編訳 弓書房 1984
- 「愛するものへの手紙 ホイットマン書簡集」 長沼重隆訳 荒地出版社 1958
- 「モンゴメリ書簡集 1 G. B. マクミランへの手紙」 F. W. P. ボールジャー,
E. R. エバリー編, 宮武潤三, 宮武順子訳 篠崎書林 1981
- 「ベンヴェヌータとの愛の手紙」 Rainer Maria Rilke著 河出書房新社 1973
- 「リルケ/ホーフマンスタール往復書簡」 塚越敏訳・解説 風信社 1983
- 「フィッツジェラルドの手紙 愛と挫折の生涯から」 永岡定夫, 坪井清彦編
荒地出版社 1982
- 「ヘッセ=マン往復書簡集」 井出貴夫, 青柳謙二訳 筑摩書房 1985
- 「若き詩人への手紙」 リルケ著, 佐藤晃一訳 角川文庫 1966
- 「ブレイクの手紙」 梅津済美訳 八潮出版社 1970
- 「メリメの手紙」 平井程一訳 春陽堂文庫 1940
- 「キーツの手紙」 松浦暢訳 吾妻書房 1973
- 「母への手紙」 フィリップ著, 山内義雄訳 新潮文庫 1958
- 「若き日の手紙」 フィリップ著, 鈴木健郎訳 新潮文庫 1958
- 「愛の手紙」 ロベルト・シューマン, クララ・シューマン著,
ハンス=ヨーゼフ・オルタイル編 国際文化出版社 1986
- 「愛と信仰について」 ボール・クローデル, アンドレ・ジイド著 ダヴィット社 1954
- 「ジャック・マリタンへの手紙」 ジャン・コクトオ著, 堀口大學訳 第一書房 1931
- 「文学と信仰のはざままで クローデルとの往復書簡」 ジャック・リヴィエール著,
山崎庸一郎, 中條忍訳 弥生書房 1982
- 「ロマン・ロランの母への手紙 1914-1916」 宮本正清訳 みすず書房 1976
- 「若き日の手紙」 サン=テグジュペリ著, 山崎庸一郎訳 みすず書房 1979
- 「サルトル書簡集 1 女たちへの手紙」 朝吹三吉他訳 人文書院 1985
- 「ドイツ戦歿学生の手紙」 ヴィットコップ編, 高橋健二訳 岩波書店 1982
- 「セヴィニエ夫人手紙抄」 井上究一郎訳 岩波文庫 1950
- 「愛と思想と人間と」 アントニオ・グラシム著, 上杉聡明訳 合同出版社 1965
- 「ルネサンス書簡集」 ベトラルカ著, 近藤恒一編訳 岩波文庫 1989
- 「妻への手紙」 上下 チェーホフ著, 湯浅芳子訳 創元社 1950



P. S. 本学図書館所蔵の文学関係の書簡集を拾ってみました。近代作家の場合、個人全集ではほとんど手紙が収められていますので、そちらも御覧下さい。

勝木淳子（奉仕部）

この四月から、図書館の“新しい顔”として、貸し出しカウンターにいます。去年までは、借りる側の学生として、外からカウンターを眺めていた立場だったのが、いつの間にか立場が逆転。カウンターに座り始めた頃は、不思議な気がしていたのを覚えています。

私が学生のとときに利用していたときは、今考えてみると、とてももったいない利用の仕方しかできなかったなと思っています。今でこそ、

目録がどんなに大切であるか、又司書の方をどんどん利用すれば良かったのだなあということをよく理解するようになりましたが、借りる側の私は、こんなことを聞くのは恥ずかしいのではないかということばかりが頭に立って、なんとか自分の力で解決しようとしていました。自分自身で解決しようとする態度は、良い心掛けだったと思いますが、その過程において館員の方の力を拝借すれば、より早くより良い結果がでたのではないかと思います。“聞くは一時の恥、聞かざるは一生の恥”という諺にもあるように、わからないことは、どんどん聞いて、その道の専門家である館員をうまく利用していったら良いと思います。

“たかが図書館、されど図書館”です。この藤の図書館がみなさんの青春の一ページに残るものになれば、大へん嬉しく思います。私自身は、まだ駆け出しの館員であり、ただいま修行中の身ではありますが、未熟でありながらも少しでもお役に立てればと頑張っています。

中谷桂子（奉仕部）

本と私との付き合いを考えてみると、幼い頃に母が子守り歌がわりに毎晩読んで聴かせてくれた「白雪姫」に遡ります。「白雪姫」に始まって、絵本や幼児用の易しい本を随分買ってもらいました。

小学生になって、十数組の親子が月一回集まり本の朗読を聴いて、ちょっとした討論をしたり感想を述べたりする“読書会”というサークルに加入しました。この他、学校の担任の先生

のご指導で、“読書ノート”（兼書

大の紙に、書名・作者名・あらすじ・感想を記入）を作った

記憶もあります。週末開かれていた、地域の児童図書館に通ったのもこの頃でした。

中学に入ってから、両親の蔵書から、日本文学や世界文学を繕って読みました。高校時代は、残念ながら読書時間も量も少なくなっていました。

藤に入塾して、この図書館に出会いました。蔵書は約20万冊で、

そのほとんどを直接手に取ってみる事ができ、借りる事ができます。本と私との付き合いの中で、最も充実した施設に恵まれた訳です。

4月から貸出カウンターで働くようになり、利用する側から、学生の皆さんの利用をお手伝いする側になりました。専門的にはこれから勉強しなければならぬ事ばかりですが、この機会に、本と私との付き合いも振り返って、働きたいと思っています。ある先生の、「本は生きているから、本からのメッセージをしっかりと受け取って活かすのが司書の仕事です。」という言葉が、とても印象に残っています。

新入職員紹介

特集：藤女子大学図書館 ————— Part 1

文学部設立と同時に、藤女子短期大学図書館から藤女子大学図書館と改称して30年。今日の姿となるまで、図書館も様々な歴史を刻んできました。新学部設立に向けて図書館もまた新たな転機を迎えようとしている今、藤女子大学図書館のはじまりから現在を振り返り、将来も見つめてみようと思います。

藤女子大学図書館の歩み

— 開かれた図書館をめざして —



はじめに

今年も新生を迎えて、スライドと図書館見学、貸出を組合わせた1コース50分程のガイダンスを行ないました。12クラスを2クラス単位で6回に分け、2日間で貸出者33人、貸出冊数47冊、次ぎの利用に繋がる参考質問数件など、最初にしては予想を上回る利用に、高校時代から培ってきた大学図書館への期待が伺われました。学生の図書館離れ、本離れを如何に妨ぐかが各図書館共通の悩みですが、本館は今年も又、確かな手応えを感じました。

図書館の理

本館は、昭和23年藤女子専門学校職員室隣りの1室を間借りした仮の図書室から始まり、昭和28年短大新校舎3階に移るまで転々とし、まさに仮住まいをしいられました。昭和34年頃より文学部設立準備のため購入図書、収容スペース等が検討されはじめ、基準冊数を満たすため四苦八苦していた矢先の昭和35年、ドイツ、ミュンヘン大学教授 H. シュマウス氏より約3,000冊程の貴重な図書の寄贈を受けました。昭和36年、大学開学と同時に藤女子短期大学図書館を

昭和37年4月現在 蔵書統計

内訳数	整理済冊数	未分類
和書	12,285 冊	2,624 冊
洋書	4,697	9,196
計	16,982	11,820
総計	28,802 冊	

昭和36年度 図書利用状況

	和書	洋書
教職員	569 冊	174 冊
学生	6,785	36

貸出規則 教員 30冊 3ヶ月 学生 2冊 1週間

('図書館通報 昭和37年6月'より)

藤女子大学図書館と改称、大学図書館としての第一歩を踏み出しました。

昭和37年は、文学部開設の2年目で、購入された古書や新刊が床にも書架にも未整理のまま、山と積まれ、閲覧室の入口には何時も閉館の札が下がり、休講になると学生はハタキを持って古書の塵払いに動員されました。4名の係は黙々と狭く暗い事務室で図書の整理に追われる毎日でした。

この頃は、東京大学附属図書館の改善計画が開始された時でした。昭和36年、ハーバード大学図書館名誉館長メトカフ氏が招聘され、昭和38年には同副館長ブライアント氏が来日し、近代図書館のイメージが未だ浮かばない日本の図書館にすぐれた助言と数々の示唆を与えました。アメリカに遅れること30年”近代図書館とは何か””開かれた図書館とは”など、図書館の理念にかかわる問題が提起されました。「この二人の深い経験と広い知識とは文字通り我々にとって暗夜の光明であった」と、当時の東大館長故岸本英夫氏は語っております。新聞、雑誌などにも大々的に掲載され大きなうねりとなり、遠い北国の図書館にも伝わってきました。

○図書館を保存から利用者へ

○図書館の資料を専有することなく研究者、学生全ての財産に

○図書館の資料を死蔵させないでopenに

このスローガンは、資料の保存、管理を主たる業務とし、利用者主体で考えたことのない

た日本の大学図書館にとってまさに衝撃的なことでした。

新図書館へ

昭和43年3月引越が始まりました。紐で縛った資料を運ぶ学生、助手の方々、そして館員の長い列が遠々と続きました。5月20日の開館前日まで利用者用の目録カードの配列が続く、まさに綱渡り操業でした。狭く暗い図書館から明るく広い開放的な閲覧室へと開館を待ちわびた学生が溢れ、館員10名のうち4名配属された係は貸出業務に追われ、開架冊数も全蔵書(50,143冊)の16%(約8,000冊)程度でしたので、大部分の利用希望の本は係が書庫から手で運んで来なければなりません。学生にとっても係にとっても書庫は暗いイメージが付き纏い、未だ使い易い場所ではありませんでした。

昭和45年学生の貸出冊数を3冊に変更し、レファレンス・サービスも開始しました。そのためか、年間館外貸出冊数は新図書館オープン時16,326冊から30,671冊に急上昇しました。昭和47年、館員も13名となり他館、他機関との相互利用も始まり、漸く新たな活動を始め始める機運が出始めました。

開かれた図書館へ

昭和56年は全接架方式、入館者チェック廃止など本館にとって画期的な体制がスタートし、館員も14名、うち奉仕部員6名(閲覧3、参考2、主任1)という現在の奉仕体制が整った年でした。昭和58年には、資料紛失防止のためブックディテクションを導入し、手荷物の自由持込みが可能になりました。この結果、受付業務がなくなり業務の省力化に繋がりました。昭和59年には、資料を書庫から運ぶ時代には、人手のめども立たず無理であった貸出休止時間を全廃し、開館時間中、貸出取扱いを行なうことができるようになりました。又、図書館の公開性が叫ばれている中で、卒業生、旧教職員など本

館に関係があった方々への貸出ができるようになりました。昭和62年には、学生からの要望が強かった「貸出制限の緩和」を受入れ、貸出冊数を5冊に増やしました。そして平成元年、念願だった国外への文献複写の依頼をスタートさせました。

〈近代的な大学図書館とはどうあるべきか〉

1. どうすれば、よい本を、できるだけ多く備えつけることができるか
2. 本はどこかに購入され置いてあるということだけではなく、どうすれば、利用者が必要とする本の所在を簡単に知ることができるか
3. どうすれば、利用者が、あまり骨を折らずに本を手にするができるか

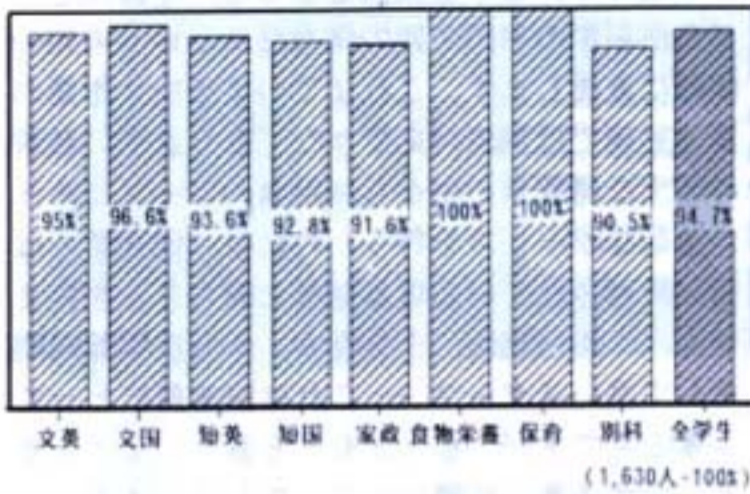
昭和30年代後半、急速に高まった近代化のこれら諸条件が、新図書館20年後にして、漸く本館でも少しずつ結実しはじめました。

現在の図書館から

現在、大学では花川校地に人間生活学部(人間生活学科、食物栄養学科)設立の計画が進行中で、昨年度は文部省へ第1次申請を行ない、平成4年開設をめざしています。新設される学部の準備のため、学内他部署と同様に、図書館も日常業務のほかに大量の処理業務に多忙を極めています。閲覧室のカウンターの中で花川館への資料運搬のこと、備品のこと、レイアウトのこと、運用マニュアル等々、期日に追いつかれながら、利用者サービスという本務を疎かにしてはいないだろうか、又、この現象が慢性化しサービスの縮少につながる要因になるのではないだろうかという恐れのようなものを感じる昨今です。1、2年前から続いている館内のあわただしさとは別に、学生は相変わらずやっ



貸出登録率 (貸出登録者 / 学生数) 1990年度



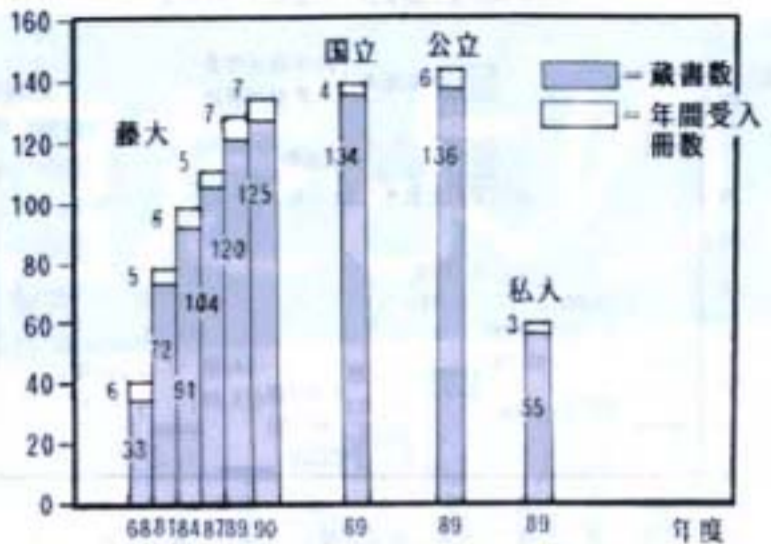
1990年度は、全学生の94.7% (約1,545人) の貸出登録がありました。本館は規模の割に利用の多い図書館です。当初、10万冊収容可能な図書館として設計されましたが、1991年4月現在、20万冊以上になりました。資料は閲覧室のあらゆる壁面、そしてフロアも利用して並べられ、完成時のような広々とした空間はなくなりました。資料も分野順に分かり易く並べる場所がないため分散され、まさに迷路のような箇所が増えつつあります。利用実態を見通した将来展望を考える時期にさしかかっています。

	年 度	年間館外貸出冊数	1日当たり館外貸出冊数	学生1人当たり年間館外貸出冊数
藤女子大	1989年度	50,232 冊	205.9 冊	28.2 冊
	1990年度	49,287	198.7	26.7
全国私大	1989年度	15,200	62	5.9

(注) 1989年度全国私大平均は『日本の図書館』平成2年度 (1989.4~1990.3現在)による

この表は、本館の最近2年間の館外貸出冊数を全国私大平均と比較したものです。私大平均よりかなり高い数値を示しています。因みに、利用の多い国際基督教大学図書館の学生1人当たりの年間館外貸出冊数は42.3冊です。

冊 学生1人当たりの蔵書数と年間受入冊数

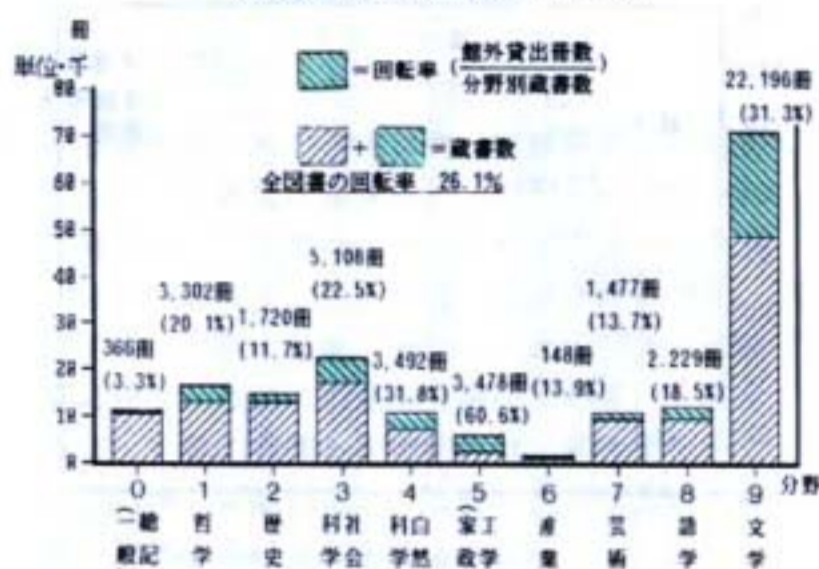


(注1) 1989年度国立、公立、私大平均は『大学図書館実態調査結果報告』平成2年度 (1989.4~1990.3現在)による
(注2) 小数点以下は四捨五入とする

上のグラフは、本館の学生1人当たりの蔵書数と年間受入冊数の推移を国立、公立、私立と比較したものです。蔵書数、年間受入冊数とも順調に伸び、私大平均よりかなり高い数値を示しています。本館の場合、蔵書量と年間受入冊数の増加が利用率をより高めています。蔵書数からみると、本館は規模の割には恵まれているようですが、果して、その構成内容が実情にあったものかどうかを比較したのが、次ぎのグラフです。

例えば、5門(工学、家政)は、他の分野では見られない高い回転率を示しています。即ち、蔵書数5,737冊の60.6% (3,478冊)が1990年度に貸出されたこととなります。しかし、蔵書数は全図書3.3%にあたり非常に少なく、利用実態に見合った数量配分がなされていないことを示しています。今後、利用状況と蔵書数の分析を行ない、利用者の要求に十分に答え、かつ、利用動向に合った選書を考える必要があります。

分野別図書蔵書数と回転率（1990年度）



(注) 雑誌を除く図書の全蔵書数176,223冊により算出

社会科学、人文科学の分野では何世紀にもわたって出版された専門分野に関連がある書物が必要とされますが、自然科学では、最新の情報の迅速な提供が必要とされます。それは必ずしも蔵書量の多少を意味することではなく、最新の科学技術の目覚ましい変化に対応できる蔵書構成が必要であるということの意味しています。このように、学部、学科、カリキュラムによって蓄積されるべき蔵書量がかなり異なります。

それにしても、他大学と比べて利用の多い本館でも、現在の図書の全蔵書数176,223冊のうち、26.1%の資料だけしか使用されていないということは、かなりの貴重な蔵書が眠っているということになります。果して本館の近代化はなされているのかどうか、多くの課題が残ります。今後も開かれた図書館へと前向きなサービス改善が必要です。

おわりに

平成4年、新学部開設となると、本館にとって自然科学の専門分野の情報提供という未知の問題に直面します。これまでのような手作業の業務処理では到底対応できなくなります。最新の膨大な情報量の中から利用者のニーズにあった適切なサービスを行うためには、他大学では既に計画されている電算処理に頼らざるを得ません。「良い建物、十分な本、十分な開館時間、そして良いスタッフ—これは図書館にとって大事なんですが、もっともっと良くしようとすると必ず予算との闘いになってしまいます」と語る、アムステルダム公共図書館員のつぶやきが、今後の本学図書館を占う言葉のように聞こえてきます。

<お知らせ>



- ☑夏季休暇中の開館日、開館時間は下記のとおりです。新学部開設準備作業のため、開館日が平年より大幅に少なくなりました。詳しくは掲示板をご覧ください。

<開館日> 7月30日(火)～8月9日(金)
8月21日(水), 8月28日(水)
9月4日(水), 9月11日(水)

<開館時間> 月～金 9:30～16:00
土 9:30～14:00

- ☑本学で学生新聞が発行されていたことを御存知ですか。この度製本しましたので、利用し易くなりました。是非御覧下さい。

藤女子大学 図書館だより 第39号 1991.7.20

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館
TEL 011-736-0311(代) FAX 011-709-8541(大学庶務課)